

学校法人柏木学園 柏木実業専門学校
令和5年度 学校評価報告書

令和6年4月10日
学校法人 柏木学園
柏木実業専門学校

学校法人柏木学園 柏木実業専門学校では、令和5年度の自己点検・自己評価にあたり自己点検委員会を設置し、学生・職員を対象とした聞き取り調査を行い、それに基づいて点検・評価の取りまとめを行いました。

また、内容については令和6年3月22日に学校関係者評価委員会を開催いたしました。その結果を、令和5年度学校評価報告書として報告いたします。

学校関係者評価委員は、以下の5名の方に委嘱しております。

鳴海 智	大和商工会議所 専務理事
武田 功成	松和電子システム株式会社 代表取締役社長（関係業界役員）
中村 真一郎	株式会社ネエチア 代表取締役社長（関係業界役員）
佐々木 英也	医療法人社団 総生会 総括事務部長（関係業界役員）
田沼 靖朗	田沼靖朗税理士事務所 所長、柏木学園同窓会会長（本校同窓生）

1. 教育理念・目標 (適切—4、ほぼ適切—3、やや適切—2、不適切—1)

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
1-1. 理念・目的・人材育成像は定められているか	4	4	本校では、安楽交活（①安心して通える、通わせられる学校②楽しい雰囲気と学園生活のある学校③交流のできる学校④活力のある、イキイキとした学校）の理念のもと、商業実務に関する専門知識及び技術を修得させ、職業に必要な能力の育成と教養の向上を図ることを目的として教育を組み立てている。
1-2. 学校における教育の特色は明確か	4	4	78年の歴史の中で培ってきたビジネス教育に関するノウハウや、地域社会・産業界とのパイプを持っており、多くの卒業生との連携がある。学生とのふれあいを大切に、きめ細やかな教育、グレード制を導入することにより、一人ひとりの学生にあわせた効果的な学習を行っている。
1-3. 学校の将来構想を抱いているか	4	4	<p>昨年度に引き続き、「情報実践基礎」「情報実践演習」の講義にて、JUIDA無人航空機（ドローン）操縦技能並びに安全運行管理者の資格取得に向けた講義を展開。操縦技能者については、今年度卒業の日本人学生のうち4名が、卒業時に資格が付与された。</p> <p>また、7月開催の神奈川県専各協会主催「仕事のまなび場」や本校主催「高校生のための夏休み特別講座」において、同講義の内容について、参加した高校生に講座を行った。</p> <p>尚、カリキュラムについて改訂を行い、医療情報学科では新たに社会福祉法人の会計に関する講義を新設、情報ビジネス科と経営経理研究科では、課題演習Ⅰ・Ⅱを、日本語ビジネスⅠ・Ⅱとの選択必修とし、本校在籍の留学生の、進路選択の幅を広げる講義名とした。</p> <p>加え、企業等との連携の更なる強化を図り、より実践的かつ専門的な能力育成に努めていく。</p>
評価委員の意見等	講義を新設するなど、常に改善に取り組んでいる。 新しい内容も取り入れており評価できる。		

2. 学校運営

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
2-1. 運営方針は定められているか	4	4	毎年度、学校目標を設定するとともに、各職員には「年間業務計画書」の作成提出を求め、目標による管理を徹底している。
2-2. 運営組織や意思決定機能は効率的に行われているか	4	4	毎年度、組織図・校務分掌表を定め、各分掌の責任者・担当者を明確にし、定期的に分掌会議を開き分掌毎の意思決定を行うとともに、職員会議において分掌間の調整、組織全体の意思決定を行っている。
2-3. 人事・給与に関する制度は整備されているか	4	4	学園事務局総務部にて、職員就業規則、給与規定が整備されている。
2-4. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	4	各職員にノートパソコンが貸与されており、クラウドコンピューティングによるスケジュールの共有化や、出席簿等各種業務のデータ化と共有、 Google Workspace で提供されているアンケートフォームやドキュメントの音声入力、スプレッドシートによる情報管理などを行うことにより、業務の効率化を図っている。 尚、次年度より WEB 出願システムの導入も予定されており、入試業務について、更なる業務の効率化を図る予定。
評価委員の意見等	IT 技術を積極的に導入し、効率化に努めている。 今の時代に合わせた内容（パソコンの利用など）は評価できる。		

3. 教育活動

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
3-1. 教育理念等に沿った教育課程の	4	4	教育課程編成委員会の助言を得ながら、常に社会のニーズに沿うようカリキュラムの見直しを行

編成・実施方針が策定されているか			っている。クラス担任と副担任を配置し、個々の学生の学習到達度や学園生活、進路上での悩み等が容易に把握できる体制を構築している。
------------------	--	--	---

3-2. 学科の教育到達レベルや学習時間は、教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえたものとして確保され明確にされているか	4	4	PC 関連の授業では、業務処理には必要不可欠となっている Word・Excel・PowerPoint・Access といった Microsoft 社のアプリケーションソフトをはじめ、会計ソフトや医事コンピュータソフトを使用した、より実践的な授業を展開している。経理実務分野では会社法や税法の改正に対応した授業を、さらに医療事務分野では健康保険法や高齢者の医療の確保に関する法律等の改正に随時対応した授業を行っている。商業実務分野の職種のありようを常に研究し、社会ニーズとのミスマッチがないよう努めている。全学科共、1800 時間以上の学習時間を確保している。
3-3. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	4	成績評価は前期試験、後期試験のほかに各教科に関連する資格試験の取得状況、授業内での単元テスト、課題の提出状況、学習態度、出席状況などを総合的に評価して決定する。その詳細は各科目のシラバスに明記され、学生に公開されている。また、進級・卒業に関しては、進級判定会議・卒業判定会議を開き、そこで決定する。これらの基準は学生便覧に明記され、年度当初のオリエンテーション期間に担任より学生に配布され周知される。
3-4. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	4	科目ごとに目標資格がシラバスに明記されており、その取得に向けた授業の展開がなされている。また、「技能審査等の合格にかかる単位認定制度」が設けられており、目標資格を取得することで単位を認定する措置が取られ、学生のモチベーション向上の一助となっている。単位認定を受けるために必要な資格については、年度毎に各教科

			で協議を行い、柔軟な対応ができるようにしている。
3-5. 人材育成目標の達成に向けた授業を行うことができる教員を確保しているか	4	4	本校で専門課程生を担当する教員は6名の非常勤講師のほかは全て専任教諭である。いずれも専修学校設置基準に規定されている資格要件を満たしており、本校の人材教育目標の達成に向けた授業を行うことのできる教員である。

3-6. 教職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	3	教職員が全員参加する職員研修会を月に1回実施するほか、簿記科・情報科等の教科ごとで様々な研修を行っている。また、進路指導部では履歴書作成指導、就職面接指導等での研修も行っている。今年度は全国経理教育協会や神奈川県専修学校各種学校協会等、本校以外の様々な主催団体が企画する研修会・研究会に積極的に参加している。
評価委員の意見等	各項目で細分化されており大変だと感じるが、このまま継続してもらえればと思う。		

4. 学修成果

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
4-1. 就職率の向上が図られているか	4	4	入学当初から、進路指導課と担任が共同してきめ細かな学生指導を行っている。2年生を対象に校内会社説明会や面接練習等、就職内定に向けた対策講座を行っている。1年生に対しては外部から講師を招いた就職指導や自己理解セミナー、社会人講話などを実施し、年度末には進路活動週間を設け、就職活動の全体的な流れ、履歴書作成などの指導を行った。留学生に関しては神奈川県国際文化観光局国際課の協力も得ながら、指導を行ってきた。

4-2. 資格取得率の向上が図られているか	4	4	科目ごとに目標資格を設定し、目標資格を取得することで単位を認定する措置が取られ、検定取得者は学期末に表彰する等、学生のモチベーション向上のための工夫を講じている。就職指導でも資格取得の重要性を強調し、今年度 24 名の学生が経理実務士補の認定を受け、就職内定につなげる好材料となった。各種対策が功を奏し、多くの学生が資格検定試験に合格を果たしている。

4-3. 退学率の低減が図られているか	4	4	担任だけでなく全教員でサポートしながら退学防止を図っている。長期欠席の学生がいれば家庭訪問をしたり、留学生の場合は、母国の家族に直接問い合わせたり、出身日本語学校の協力を得ながら、状況把握に努めている。本年度の中途退学者は、4月当初 147 名の在学生に対して、3月末現在、7名であった。情報ビジネス科 1年 5名、2年 1名、経営経理研究科 1年 1名である。この内、家庭の事情・本人の健康上の理由等が 2名、就職が 3名、出席不良・学費未納のため除籍処分となった者が 2名であった。本年度はビザ申請不許可での退学者はいなかった。
4-4. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	4	直近の卒業生に関しては、就職した企業等を訪問し、卒業後の実態把握に努めている。例年では年に一回、同窓会を開催し卒業生の動向把握に努めているが、本年度も同窓会開催ができなかったため、Facebook や SNS などで卒業生の近況を確認している。
評価委員の意見等	資格取得率も高く、指導が行き届いていると感じる。 退学率が顕著に改善している点は評価できる。		

5. 学生支援

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
5-1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	4	入学当初から、進路指導部と担任が共同してきめ細かな学生指導を行っている。また、ハローワーク、神奈川県国際文化観光局国際課や企業等との連携も深めながら指導を行っている。今年度も企業の担当者に来校いただき校内会社説明会を実施した。また、外部のキャリアコンサルタントからコンサルタントやジョブ・カード作成指導を受ける機会を設けている。
5-2. 学生相談に関する体制は整備されているか	4	4	主に担任と進路指導部、学生指導部が学生の相談にあたっているが、相談内容によって適宜、適切な教員が対応している。全教職員が情報共有することで、個々の学生をサポートする体制が確立している。

5-3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	4	日本学生支援機構の奨学金制度や文部科学省の高等教育修学支援新制度等を活用して支援にあたっている。今年度は日本学生支援機構から給付型奨学金を3名の学生が、また第一種奨学金を3名、第二種奨学金を1名の学生が貸与されている。また私費外国人留学生学習奨励費として、成績優秀な留学生11名が同機構から奨学金を給付されている。 希望者に対しては学費の分納を認め、負担軽減に努め、安心して勉学が続けられるようサポートしている。
5-4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	4	毎年1回の定期健康診断を実施し、学校医を配置している。本年度も4月に健康診断を実施し、全学生の健康診断を徹底している。また、同じ建物内には姉妹校である大和商業高等専修学校の保健室があり、養護教諭が常駐しており、緊急時は、そちらを利用できる。
5-5. 学生の生活環境への支援は行われているか	4	4	生活環境支援が必要な留学生には、アルバイト先や住居の紹介、本年も入居契約時の緊急連絡先を引き受け、支援を行っている。

5-6. 保護者と適切に連携しているか	4	4	本校では、保護者と学生、職員で構成する教育交流会があり、そこを中心に保護者との連携を図っている。個別の事案では各担当が随時連絡を取り、必要に応じて面談、家庭訪問を行っている。また、留学生に関しては、中国語、英語が話せる教員を配置しており、必要に応じて本国の保護者と連絡を取っている。
5-7. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	4	毎年、近隣の高等学校から国際理解教育の協力依頼があり、令和5年度は、7月31日に柏木学園高等学校の国際交流会、8月7日に神奈川県商業高等学校サマーキャンプ、12月15日に神奈川県立平塚中等教育学校の国際理解教育授業協力、1月19日に神奈川県立保土ヶ谷高等学校の国際理解教育授業協力、1月16日と2月6日の2回にわたり大和商業高等専修学校英検対策授業協力と、各々留学生を派遣した。
評価委員の意見等	<p>学生に対して多面的な支援を行っている。</p> <p>学生に対する指導が行き届いており評価できる。</p>		

6. 教育環境

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
6-1. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	4	本校舎は、平成21年に最新の防音構造、耐震構造を備えた施設として改築されている。一般教室のほか、PC教室（4教室）があり各教室とも学習に専念するに十分な空間を確保している。PC教室（4教室）については、Microsoft社の最新のアプリケーションソフトが導入されている。その他に、介護実習室、アリーナ（体育館）を備えており教育上の必要性に対応できるよう整備されている。
6-2. 学内外の実習施設、インターシップ、海外研修の場等について十分な	4	4	今年度も企業実習・病院実習を実施。実習先は、鹿島建設㈱、㈱三井住友銀行大和支店、㈱三菱UFJ銀行大和支店、オイレス工業㈱、松和電子システム㈱、㈱ネエチア、(医社)総生会 麻生総

教育体制を整備しているか			合病院・麻生リハビリ総合病院であった。
6-3. 防災に対する体制は整備されているか	4	4	姉妹校の大和商業高等専修学校と合同で地震防災・消防計画を立て、自衛消防隊を編成している。本年度は4月12日(火)に、防災について考える機会を持ち、防災意識の向上につなげるための防災ガイダンスを実施。8月30日には火災を想定した避難訓練を実施。水消火器を使った消火活動や煙が充満した教室からの脱出体験を行った。また、3月1日には起震車での地震体験を1年生が行い、防災に対する意識付けも行っている。
評価委員の意見等	<p>学生が安心して学べる環境づくりが適切に行われている。</p> <p>教育環境に問題はない。</p>		

7. 学生の受け入れ募集

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
7-1. 学生募集活動は適正に行われているか	4	4	総合選抜(AO)入試・推薦入試・一般入試の出願受付開始時期は募集要項・ホームページにおいて明示し、それ以前の願書の受理は一切行っていない。また、学校見学会やオープンキャンパス等で入手した個人情報は学園の個人情報管理基準に基づいて厳格に管理している。
7-2. 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情	4	4	資格取得・就職状況は入学案内やホームページで公開している。また、教育内容や学園生活での様々なイベント情報等も、随時、ホームページで

報は正確に伝えられているか			公開している。
7-3. 学生納付金は妥当なものとなっているか	4	4	本校の学納金は、他の大学・短大・専門学校と比べても相当に低い水準に収まっている。
評価委員の意見等	説明を聞き、口コミが多く素晴らしいと感じる。 運営がうまく行われていることが伺える。		

8. 財務

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
8-1. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	4	昨年度はコロナ禍の影響で、留学生の入学者数が減少したが、本年度は留学生が増加した。また、付帯事業収入もあり、安定した財務基盤を確保している。学園は他に、柏木学園高等学校、大和商業高等専修学校、都筑ヶ丘幼稚園の3組織を持ち、法人として安定した財務基盤を持っている。
8-2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	4	本校の予算・収支計画は法人役員会にて策定され有効かつ妥当なものとなっている。
8-3. 財務について会計監査が適正に行われているか	4	4	内部監査・監事監査・監査人監査等の期中、期末の監査を実施しており適正な監査体制が確立されている。
8-4. 財務情報公開の体制整備はできているか	4	4	規定を整備し、適正な運用が図られている。
評価委員の意見等	財務に問題はなく、極めて健全な学校運営が行われていると評価できる。 グループ全体の安定した運用、特に入学者が増加しており問題はない。		

9. 法令等の遵守

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
------	------	---------	----

9-1. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	4	法令、設置基準等を遵守し、適正な運営を行っている。
9-2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	4	学園事務局において、個人情報保護規定が整備されており、それに従って管理・保護している。
9-3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	4	年度末に全教職員を対象として「年間業務報告書」の提出を求めると共に、教職員自己評価アンケートを実施している。また、全学生を対象とした学校評価アンケート調査を実施し、実態と問題点の把握に努め、それをもとに改善を実施している。
9-4. 自己評価結果を公開しているか	4	4	26年よりホームページで公開している。
評価委員の意見等	適切に情報の開示が行われている。 情報の公開が安心できる。		

10. 社会貢献

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
10-1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	4	大和商工会議所との共催で日商簿記検定対策の夜間簿記講習会を開催し、地元中小企業の経理事務スタッフ養成研修の一助となっている。

10-2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	4	学校全体の取り組みとして、大和市清掃の日に合わせて、学校周辺の清掃活動に参加させることでボランティア活動を体験させている。本年度は5月から6月にかけて経営経理研究科と情報ビジネス科2年生が、そして11月から12月にかけて、情報ビジネス科1年生が校外清掃活動を実施した。
------------------------------	---	---	--

			また、近隣の学校等から英語教育の一環として留学生の協力要請が来ることもあり、そのような機会には積極的に参加できるよう奨励、支援している。
10-3. 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施している	4	4	社会人未就職者が即戦力として早期に安定した職業に就くための知識・技能を習得する場として、ハローワーク等との連携をはかりながら神奈川県公共職業訓練・求職者支援訓練を実施している。本年度も専門学校で2つのコースと研修センターで20のコースの公開講座・教育訓練を行った。また、平成30年度より、厚生労働省による公的職業訓練に関する職業訓練サービスガイドライン適合事業所認定制度の始まりを受け、積極的に講習会に参加し、「サービスガイドライン適合事業所認定」を受けている。
評価委員の意見等	地域や近隣の学校と交流を行っており、社会貢献に対する意識の向上を図っている。 地元と密着した活動は評価できる。		

11. 国際交流

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
11-1. 留学生の受入れを行っているか	4	4	日本人学生と同様の条件で広く門戸を開いている。本年度は、情報ビジネス科、経営経理研究科で1・2年合計115名のネパール・ベトナム・中国・スリランカなど7か国の留学生を受け入れた。
11-2. 留学生の受入れ、在籍管理等において適切な手続等がとられているか	4	4	適切に受入れ、管理しており、東京出入国在留管理局より「留学生受け入れ適正校」に認定されている。

11-3. 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な	4	4	既定のカリキュラムの他に留学生だけの日本語の授業や選択授業を設け、日本語能力試験合格を目指した検定対策や模擬試験を行なっている。ま
------------------------------	---	---	---

<p>体制が整備されているか</p>		<p>た、日本語力向上のために、校内では日本語でのコミュニケーションを指導し、全ての科目においても、専門用語等を平易な言葉で詳説しながら、「聴く・書く・読む・話す」場面がバランスよく配置された授業に努めている。生活面においては、アルバイトや住居等で留学生特有の問題もあることから、留学生担当の分掌を設け、対応している。病気やケガ等で通院治療の必要な学生には各担任が医療機関の紹介や付き添いを行っている。</p> <p>また、オーバーワークを理由に、留学ビザの期間更新が不許可にならないよう、アルバイト時間の管理・指導を徹底している。</p>
<p>評価委員の意見等</p>	<p>留学生の管理等もしっかりしており、評価できる。</p>	